第３回 菊川市介護保険事業計画等推進委員会　　会議録

【日時】
平成 29 年 10 月 30 日（月）　13：30～14：45

【場所】
菊川市総合福祉センター　プラザけやき　２階 201 会議室

【次第】
1　開会
2　あいさつ
3　議事
　第７期介護保険事業計画・第８次高齢者保健福祉計画の計画案について
（1）計画案について
（2）認定者数・サービス推計について
4　閉会

【議事録】
（1）計画案について
（委　員）　28ページの星印が付いている重点項目について、なぜ重点にしたのか、重点にした理由はあるのか。現状把握した上での課題から新たに付け加える、というストーリーが表現されると分かりやすいのではないか。過去、現在、未来ではないが、そういう観点で資料がまとまって、だから今期はこれを重点に今までとは違うやり方で実施するという内容がある方が、我々も分かるし、実行する人も分かるのではないかと考える。
（事務局）　今回、重点として設定したものの中では、アンケート調査から認知症に対する関心の高さによるところがある。残りの２つ、「自立支援と重度化防止に向けて」と「生活支援サービスの基盤整備の促進」については、国の施策が大きく影響しているところがある。制度改正の概要でも書いたが、「自立支援と重度化防止」というキーワードは、今回の法改正の中に初めて強く出てきたものである。今まで、その視点を強く持ってやっていたかというとそうではないので、今までと大きく制度へ向けての流れが変わったということで入れたものである。また、生活支援サービスの基盤整備については、前回の法改正の中で初めて、地域資源を利用して、介護サービスでなく高齢者を支援するような体制が必要になると、地域包括ケアシステムの構築の中で必要であるということが言わ

れ始めた中で、菊川市では生活支援サービスの基盤を作っていきたいということで、重点項目とさせていただいた。そんな経緯でこの３つを選んでいる。

（委　員）　そのことが分かるように、例えば国の外部環境と言うとおかしいが、そこと菊川市との差がある。現状、菊川は遅れている。プラスなのかマイナスなのか。マイナスであればそれをどう補完するのか。それもこの３年間でやれるのかやれないのかということもあると思う。財政上の問題とか環境上の問題とか、人的な問題とか、そこをどう埋めていくかということ。認知症については、確かにアンケートの結果から、介護者が認知症に対する不安を感じている。それは１つの大きな現状把握だと思う。だから、こういうことをやっていかないといけないということが分かるように。課題の中で、進め方の中でそれが出てきていないので、前のページを見れば分かるという形になっているので、全部把握しないと分かりにくいと思った。

（事務局）　大変参考になる。計画のポイントのところで、どうして位置付けていくのかということが分かるよう、変更したいと思う。

（委　員）　資料１と資料２ともに、平成30年度から32年度となっているが、報道によると、平成31年４月30日をもって平成は終わりということなので、このままで良いのか、例えば西暦の2018年からという形にした方が良いのか、どちらかを括弧書きにした方が良いのか。年度について、ご検討いただきたい。

（事務局）　今年度中に冊子は作成するようになるので、何らかの形で決定し、修正するようにしていきたいと思う。

(2) 認定者数・サービス推計について

（委　員）　説明を聞いていて、確かに立派なことが書いてあるが、これからどんどん高齢者は増えてくる。2025年問題がある。市も事務に手一杯で、お金も手一杯で、これ以上市が主体でやっていけるのか。もっと単位自治会でやるべきことがあるのではないか。単位自治会での役割とかが全然書いていない。例えば100ページで、高齢者の情報収集なども自治会が出てこない。もっと自治会のことも明確にしたらどうかと思う。この介護保険事業計画と高齢者保健福祉計画は、確かに市、病院、介護施設、民生委員が主体になっていくのだと思うが、もっと自治会でもやるべきことがあるし、自治会の役割も私はあると思う。もっと自治会のことを書いてもらえたらどうかと思う。高齢者の情報も、色んな情報を色んなところから集めたら、単位自治会へフィードバックするとか、単位自治会に

拘ってやってもらいたい。そういう役割も、ますますこれから増えてくると思う。もっと自治会への要望とか自治会の役割とかを書いていただけるとありがたい。市だけでは、事務もお金も手一杯だと思う。地域でもっと、自治会でやれることはある。

（事務局）　自治会には色々と地域の中で関わってもらっているところが多いのは承知している。先ほどの重点の中にも出てきたが、生活支援サービス整備事業も、コミュニティ協議会とも色々と情報をやりとりしながら考えている。計画の中に書くかどうかは検討をするが、計画を進めていく中では情報をやりとりするということもどこかで入れられたら良いかと思う。また検討させていただく。

（委　員）　憲法にも、地方自治の奉仕と書いてある。地方自治、自治会あたりが主体になって動くべきだと思う。しかし、この計画案には、全然自治会のことがない。コミュニティ協議会よりも自治会で、住民の実態把握も単位自治会長の責任、あるいは、連合自治会長の責任だと思う。

（事務局）　実態把握のところ、またワーキングの中でも、もう少し自治会に関わってもらえばどうかという話も出ていた。そのあたりをどういう書き方にすれば良いか分からないが、地域の中でそういった形で取り組めていければと思う。

（委　員）　自治会には、常会という組織があって、毎月１回集まっている。そこで、色々な情報もある。そういう情報が集められるかどうか。そういう情報はコミュニティ協議会では取れないと思う。民生委員でも完璧には取れない。単位自治会長こそ、集められる情報もある。私が思うには、国や市がいくら立派な計画を作っても、単位自治会で見守り活動をしっかりして、手を差し伸べて、小さな地域のところで、安全安心を守ることが一番大事なような気がする。

（事務局）　本当に、そういったところ、身近な班とか、自治会の中に住んでいると、やはり班の情報が班長から自治会の中に上がっていると、一人の市民として感じているところがある。そういったところも、事業に何か生かせることができたら良いと思う。具体的にはそのところの記載にはなっていないので、また、関わりについて追加したいと思う。

（委　員）　サービス量の数字の話だが、相対的に比較されていないから、菊川市の位置がどういうレベルなのか分からない。例えば、要支援１～５の人数が、75歳以上で菊川は何％、県では何％と、どういう位置にあるのか。認定率と言うか、高齢者が非常にたくさんいても、認定者が少ない市町もあると思う。そ

ういう市町ではどういう施策が実施されているのか。先ほどの意見のように、自治会の活動もあるのかもしれない。自治会活動でこんなことをしているから非常に良いとか、あるいは、他の予防事業を実施しているから良いとか、何かそういう見方ができる、相対的に比較できないと、数字を見ても何の面白味もない。多い、少ないだけで。減ってきているのも、相対的にどう減ってきているというのであれば、何か比較ができるが、これでは話ができない。ベンチマークみたいな形で、何か基準と言うか、何かそういうものがあって、菊川と同規模の市町ではどうか。菊川とその市町の違いは何なのか。そういうところから、発想、活動の内容はできてくる。介護保険事業のあるべき姿とか、この３か月で作るのは難しいかもしれないが。長い目で見れば、そういうことも調査の中に入れていかないといけないと思う。例えば菊川だけでも良い。地区で比較した時にこんな違いがあると、河城地区はサロン活動が非常に活発なのでこういう実態になっているとか。何か相対的な比較を、菊川のこの集落を見ると非常に良い、そこは自治会活動でこんなことをしているという結果が出てくれば、将来の目標になってくると思う。そういう計画だと分かりやすいと思う。

（事務局）　数字については、内部では分析しているものがある。ただ、数字的にはあるが、何が功を奏してそうなっているというところは、実を言うと、まだあまりはっきり分かっていないというところもある。皆様に菊川市の位置を報告する機会はこれからも作っていけると思いますので、まずは相対的に、全体がどういう状況なのかということをお示ししていければと思う。

（委　員）　それこそ、そういうことがあれば、自治会長に聞けば何か出てくるかもしれない。

（事務局）　例えば、介護度別で、分布量が違うというのは作成した中でも見えているところがあるが、その理由は分からない。

（委　員）　理由は良いのではないか。示してもらえば、少しは理由が分かるかもしれない。

（事務局）　また、資料を用意させていただき、皆様に色々と教えていただければと思う。

（委員長）　委員の皆様には、新しい事業計画の策定について、引き続き注視をいただき、計画策定にご協力いただきたいと思う。